

緒 言

この冊子は、論文の表現形式が学術論文にふさわしく書かれているかどうかを点検する目的でつくられている。投稿者の中には「十全医学会の校閲が、それぞれの専門学会誌に投稿するより厳しい」と言う人がいる。私たちもあるいはそうかもしれないと考えている。それではなぜその様に厳しい必要があるのだろうか。十全医学会雑誌に投稿される論文の大多数は、学位請求論文(thesis)であるが、thesis とは「1つの position あるいは degree を志願するもので、当然厳重な審査あるいは試験を受ける性格をもつ」(十全医学会誌93巻1号山本信二郎「論文の書き方」より) 故である。研究内容に関しては、医学部の学位審査試験がこれを担当する。

この内容が十全医学会雑誌に形をとって表明されるわけだから、その形式が厳正なものでなければならぬのは当然のことであり、この形式にしたがって書くことは、かなりきびしい訓練を必要とする事なのである。しかし実際には、この訓練不足のままに投稿される論文があまりに多いので、編集部は self-discipline の手引としてこの冊子をつくった。この訓練は将来に各自が core journal と言われる主要雑誌に投稿する時にも、いくらか参考となるはずである。

【投稿規定】

本誌は、十全医学会会員の未発表の原著（和文または英文）を中心とするが、総説、学会記事および抄録、書評、雑報、その他も掲載する。

【和文で投稿の場合】

※英文投稿の場合は、一般に、A4でダブルスペースとし側縁に2.5～3 cm、上下縁に4 cmの余白を空ける。構成は和文投稿の場合と基本的に同じである。

I. 和文の場合は、すべてA4判大で600字（30字×20行）とする。横書き、口語体で書きなるべく常用漢字新仮名使いを用いる。字画は正しく書き、コンマ、ピリオド括弧などは、すべて1字として扱うこと。数字はアラビア数字の全角を使う。ただし、「十数回」「百分率」などの場合は例外とする。原本とそのコピーを1部（表図も同様）、雑誌投稿用紙、電子媒体を添え事務局まで提出する。

注1) 電子媒体の提出について

- ・ 氏名、住所、連絡先（電話番号）および使用したソフト名を記入すること。

文字データ：Word ファイル形式はテキスト保存。

写真データ：Photoshop, Photoshop LE, Power Point 等。

ファイル形式 EPS, JPEG 保存。その他の画像ソフトでも保存形式が EPS, JPEG, TIFF であれば、可。

表データ：イラストレーター, Excel。イラストレーターについては Ver.8.0 に下位保存、文字のアウトライン化にすること。

- ・ 特殊な記号や外字などはソフトウェア相互の規格の不統一によって、正しい変換が行なわれない（文字化け）ケースが多々あるので、校正時には特に注意する。
- ・ 英単語の途中での改行のハイフンは入力しないこと。

注2) ヒトゲノム・遺伝子解析、および動物実験を含む論文の投稿に際し、投稿時に

は、当該研究の許可通知書のコピーを添付し、論文中に研究許可年月日、許可番号、課題名を記載する。

注3) Table, Figure の Legend, Abstract などの英文は、各自の責任において十分推敲すること。なお、投稿規定に沿わないものは、受付前に著者に返却する。また、受付論文の修正に3ヶ月以上かかるものは、受付の取消しとなり再度新たに受け付けることになる。

II. 原稿の編成順は次の通り(1~10)である。

「----- (改ページ) と記載してあるところは、書きはじめである。」

1. 表題ページ

- 1) 表題, 所属, 氏名, 25字以内の略題, 連絡先を表示し, これを第1ページと, 原稿すべてに通しページをつける。
- 2) 表題では略語を使用せず, 病名などについても出来るだけ邦訳する。

<p>表 題</p> <p>金沢大学大学院医学系研究科○○専攻研究分野</p> <p>(旧講座名 : ○○○○)</p> <p>(主任 : ○○教授)</p> <p>氏名 ○○○○</p> <p>略題 ○○○○○○・・・・・・(25字以内)</p> <p>連絡先 住所・TEL・FAX・E-mail</p> <p>(所在場所が金沢大学医学系研究科以外の場合は必ず明記する)</p> <p>研究分野</p> <p>1</p>

2. 和文抄録 ----- (改ページ)

- 1) 800字にまとめ, 英文抄録の内容と一致すること。
- 2) 抄録全体が一つのイメージに印象づけられる様にまとめられるべきである。途中で行を改めず全文を続ける。

3) 抄録は、一つの独立した文と扱うので、なるべく略語は使用しない。

また、抄録および本文中で1度しか使われていない略語は、原則的には不要だが、略語の方が一般的に通用されている場合は略語も併記して良い。

4) 抄録は結論とは異なる為、短い文の中に目的、時として方法、結果、結論の順にそれぞれ記載する。

3. Key words ----- (改ページ)

5個以内の英語または邦語とする。固有名詞以外は小文字で書く。

Key words に用いることのできる略名は専門分野を離れて医学一般に用いられる語に限る。

例) Key words (コロンなし)

medial septum, cholinergic neuron, ATP,
dibutyryl cyclic AMP, …… (最後にピリオドはなし)

4. 略語表 (Abbreviations)

1) 本文中の外来略語とそのフルスペリングを略語のアルファベット順に記載する。日本語略語は、これに続けてアイウエオ順に記載する。ただし、十全医学会雑誌、HPの略語表に掲載されている略語は、Abbreviation 欄に挙げる必要はない。また、本文中でも邦語やフルスペルを示す必要はない。

例) Abbreviations: (コロンあり) DA, dopamine; PCA,

perchloric acid; 電顕, 電子顕微鏡 (最後にピリオドなし)

2) Figure, Table のみに使用している略語も記載する。

5. 本文 ----- (改ページ)

本文内容の編成は次の1)～6)の順序とする。ただし原著以外はこのかぎりではない。

1) 緒言 見出しなしで始める

2) 対象 (または材料) および方法

I., 1., 1), i., a., a), の順で、項目だてて記載する。

3) 成績 項目だてて記載する。

- 4) **考察** 項目を分けなくとも理解出来るよう簡潔に書くこと。ただし、読者の理解の為にどうしても必要な場合は、項目を分けて書くのは差し支えない。
- 5) **結論** 項目だてて記載する。また実験数値は細かく表示せず、簡潔に記載する。
- 6) **謝辞**

6. 文献 ----- (改ページ)

- 1) 文中に引用した順に記載する。
- 2) 本文中では引用文献の著者名、または内容の右肩に番号を書き、文献欄との照合を容易にすること。ただし、引用文献が3つ以上連続するときは○○○^{③~⑦}と書くこと。
- 3) 本文中では引用文献の著者は、筆頭者名のみを書き、それに“ら”を付す。原則として年号は省く。○○○ら^{③~⑦}
- 4) 引用者が日本人著者であっても欧文で発表してあるものは、そのままローマ字で書く。
- 5) 論文の題名をフルタイトルで書き、ページの始めと終わりを入れ、原著および単行本については投稿例に従って記載する。
- 6) 文献数は、なるべく必要度の高い文献のみを記載し、50以上にならないようにする。

(記入例)

- 1) Zarrow MX, Holmstrom EG, Sahlnick HA. The concentration of relaxin in the blood stream and other tissues of women during pregnancy. *J Clin Endocrinol Metab* 14 : 22-27, 1955
- 2) 奥村隆俊, 光村利一, 中西真澄, 瀉血血糖過剰の機作用について. *日内会誌* 14 : 273-275, 1926
- 3) Bull HG. *Physiological Biochemistry*, 2nd ed, p97-107, John Wiley & Sons Inc, New York, 1951
- 4) Leibovitz B, Siegel BV. Ascorbic acid and the immune response. In M Philips, A Baetz (eds), *Diet and Resistance to Disease*, 1st ed, p1-25, Plenum Press, New York 1981
- 5) 早田 勇. 染色体標本作成法. *実験動物の血液学* (小林好作, 平嶋邦猛 関 正利 編), 第1版, 281-293頁, ソフトサイエンス社, 東京, 1981

引用雑誌の略名は, *Medical Literature Analysis and Retrieval System* , *World List of Scientific Periodicals* , *World Medical Periodicals*, *List of Journals Indexed in Index Medicus*, *Excerpta Medica List of Journals Abstracted*, *Serial Sources for the Biosis Data Base*, *医学中央雑誌収載誌目録*, *日本自然科学学術雑誌総覧*などによる。

7. 英文抄録 ----- (改ページ)

- 1) 英文の表題, 氏名, 所属, **Key words** に続いて **Abstract** とし, ダブルスペースで 400 語以内改行なしで続けて書く。

Title Name, Department of (研究分野), Graduate School of Medical Science,
Kanazawa University, Kanazawa 920-8640

Key words pancreatitis, ……(最後はピリオドなし)

Abstract

2) 英文中のスペースの空格方

- i. 句読点 (. , ; :) の次は一字空ける。ただし, 小数点を示すピリオドや数字の桁 (千百万等) を表すコンマの場合は空けない。また, 略語の最後に打ったピリオドの場合は空けない場合がある。
- ii. 数字の単位の間は一字空ける。ただし, %や℃などは空けない。
例) 5 ml/ l 5%
- iii. 括弧の場合, 左片括弧の前と右片括弧の後は一字空ける。ただし, 括弧の直ぐ後に句読点やハイフンの来る場合, 右片括弧の後は空けない。
- iv. 薬品名を表記する場合, 括弧やコンマの後に一字スペースを入れることはしない。
例) (1S3R)-1-aminocyclopentane-1, 3-dicarboxylic acid

- 3) 読み易い文は **one idea to one sentence** であり, 文は大体 25 ~ 30 語以下にするのがよいとされる。したがって, 和文を英訳する場合にも原文にひきずられることなく, 適当にきってよいと思われる。

- 4) 一般に知られている事, あるいは自分達の研究室の仕事を長々と書かない。

It is well known that… … .とイントロの始まるものはすべてこれにあてはまる。

これは例えば, **The present study was performed to examine**… … .と, 自分の研究目的をいきなり出した方が **Abstract** の形としてすっきりする。冒頭から長々と動詞抜ききの文が続き最後にやっと… … **was studied** の形で終わるものがあるが, …

これは実際には日本文スタイルであり英文のそれではない。

- 5) Abstract の結論のところでは **These findings suggest that**… may… と may をいれてあるものがあるが、日本語に訳すれば「……かも知れないことを暗示する」となる。suggest の後に may を入れると大切な結論の力は弱くなる。「… …かも知れないことかも知れない」ではこんな結論を除去した方が良いと思うが、著者の真意は may を除いて達している場合が多い。
- 6) 文頭に数字は置かない。どうしても置く場合は、アルファベットで表現する。
- 7) 1 人称は使わない。
- 8) 実験数値は細かく表示せず簡潔に表示する。

8. 表(Table) (例題参照) ----- (改ページ)

- 1) 英語でタイプする。
- 2) Table の上には表題を記載し、その表の下には説明文を記載する。
- 3) 本文中では、表 1, 2, ……と入れる。
- 4) 本文の右欄外に表の挿入個所を鉛筆で指示する。
- 5) 記入文字やその他の表現法スタイルを統一する。Table では、原則として縦線は使用しない。

(悪い例)

Group	Number of Fish	Retina (nmol/g)	Visual Cortex (nmol/g)
Control	20	3.11 ± 0.27	2.19 ± 0.18
Conditioned	18	3.75 ± 0.31*	4.40 ± 0.19**

(良い例)

Group	Number of fish	Retina (nmol/g)	Visual Cortex (nmol/g)
Control	20	3.11 ± 0.27	2.19 ± 0.18
Conditioned	18	3.75 ± 0.31*	4.40 ± 0.19**

注 1. *と**の有用性を付す場合、どんなテキストで、何と何を比較して得られたかを明らかにし *P<0.01 ; **P<0.005, と記しておく。

注 2. ±SD か±SEM であるか明記すること。

9. 図 (Figure) (例題参照) ----- (改ページ)

- 1) FDで提出する場合は、図は提出された原稿のみとなるので、そのまま製版できるまでに仕上げる。
- 2) 1つの図が複数の図からなる場合については、一枚にまとまるように構成する。
- 3) Histologyの写真に標準の長さ(スケール)を与える。顕微鏡写真は印刷に際して縮小されることが多いので、legend中に×400等と拡大率を記入することは、誤りの原因となる。写真の中に10 μ mなど標準の長さの直線を入れておく。
- 4) Figureの下に Fig.1., Fig.2., と書き入れる。

(悪い例)

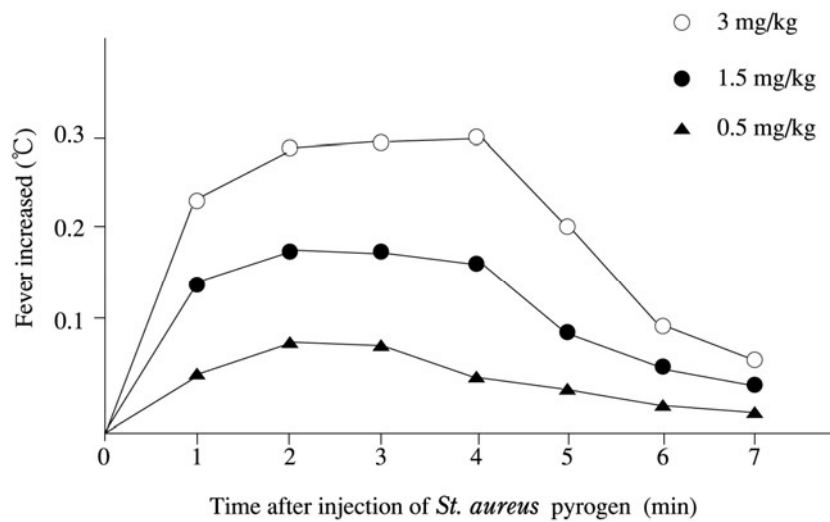


Fig. 1.

(良い例)

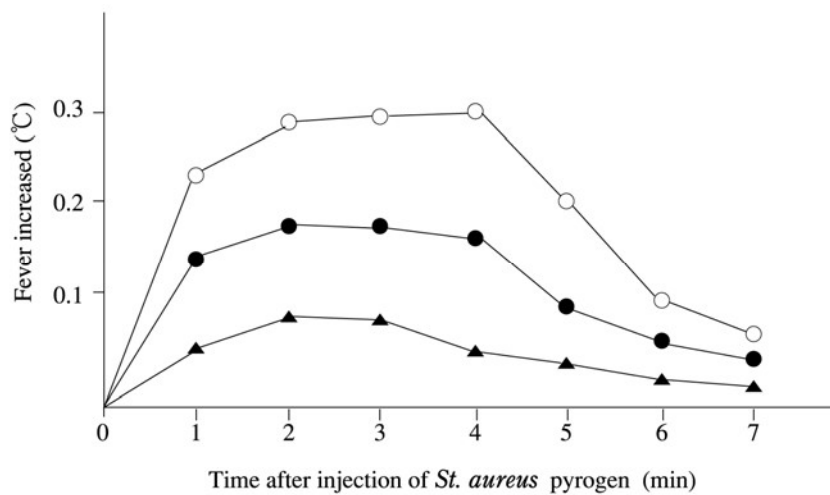
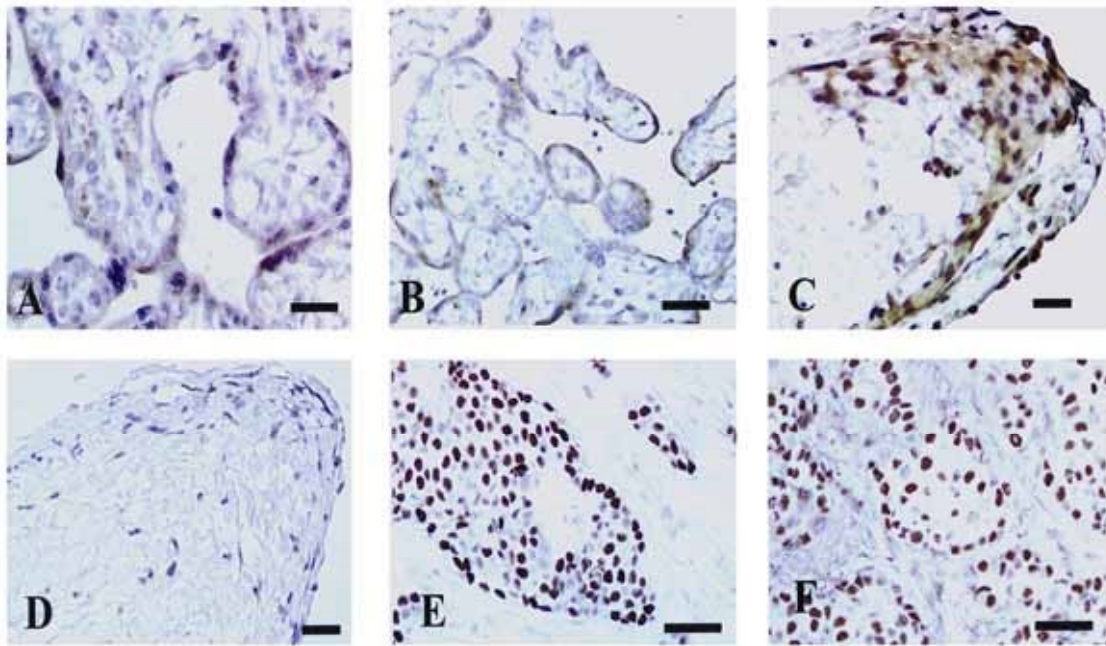


Fig. 1.



写真のバックが白の場合は、黒字の A.B.C 写真のバックが黒の場合は、白字の A.B.C

- 1) 本文の右欄外に図の挿入個所を鉛筆で指示する。
- 2) 本文中では図 1, 2 と記載する。
- 3) Figure の印刷可能な大きさは、巾 88 cm (一側欄のみを使用), および 16 cm (全巾を使用) であり、縦は 24.5 cm である。
- 4) Figure の構図の中に説明を書き入れず Legend に記載すること。
- 5) Figure にさらに図の挿入がある場合、挿入図を含めた 1 つのタイトルをつける。

10. 図の説明文 (Legend)

- 1) 説明文には表題をつけ、図と別に一括して英語でタイプする。
(書き方は、本誌最新号を参考にすること。)
- 2) Figure の説明にはそれぞれ Title をつける。
- 3) Figure や Table の legend の中に Figure や Table によって示される result の記載を入れない。

論文執筆の注意事項

I. 薬品・機器名について

1. 薬品・機器名（会社名，都市名，国名）日本の場合は国名を記載しない。

例) アルブミン(和光，大阪)，

トリクロロ酢酸(trichloric acid, TCA)(半井，京都)*

ATP(Sigma, St.Louis, USA)

¹⁴C-チミジン(50TBq/mmol, アマシャム・ジャパン, 東京)**

超遠心器 70P-72型(日立，東京)， RAMボード PI09234(IOデータ，金沢)

*外国語の略語を併記する場合の例

**規格を明記する場合の例

2. 病名や化合物名（薬品を含む）は日本名（主としてカタカナの外来語）として使用されるケースが多い。薬に関しては薬理学教科書，化合物については生化学教科書，あるいは化合物カタログ，病名に関してはそれぞれの領域の教科書で慣用されるものは日本語で書くようにする。酵素名なども学名として和名（主としてカタカナ）が設定されていれば，これを使うことが望ましい。

II. 外国語について

1. 固有名詞を除き，日本語訳またはカタカナで書く。やむを得ず外国語で書くときは，小文字で始める。ただし，文頭のみ大文字で書き始める。
2. 術語と思われる英語は乱用しない
例) 「……を incubate し……」，「coculture し……」，
「European group によれば……」，
「early stage late stage では……」，
「その speciality や sensitivity は……」
3. 英語の動詞を日本語の文章の中にそのまま使う場合，そのほとんどは incubate

しとか，coculture しとなり学術論文の格調としてはふさわしくない。また，術語として横文字がどうしても必要というのではない場合がほとんどである。出来る限り日本語で書くことは日本語としての品位の問題で，大切にすべきである。

Ⅲ. 略語について

1. 本文中で略語を使用する場合は、初出時に邦訳（フルスペリング，略語）で記載する。

例) 免疫粘着反応(immune adherence, IA)

2. 原語に意味がないものは、準固有名詞的に扱う。

例) RANTES(regulated upon activation in normal T cells expressed and secreted)

この場合、サイトカインである RANTES(……)という様に説明的日本語句を前置する方がよい。

3. 略語をつくる時、単語順、あるいはスペル順を正確に守る。(略語と記号は異なる。)

注1) basel glomerulosa cell production (B) と略するのは完全に略語を記号と錯覚している。

注2) thin layer chromatography → TLC の如く数語の capital をとって略号とするケースもあるが、一つの単語でさえ interferon→INF の如く出来るだけ元の言葉が判る様に略するのが略語の原則である。

注3) hypertension with asymmetric septal hypertrophy の様なフレーズの連続単語を一気に HAASH と逆転することは望ましくない略し方である。

4. 遺伝子について

正式に知られている遺伝子は、イタリック体としその遺伝子の産物は 正字体とする。

A T M

A T M

(遺伝子)

(遺伝子産物あるいは蛋白質等)

ただし、A T M 遺伝子や F R P 遺伝子と表示してあるときは、それぞれのタンパク質の遺伝子ということでイタリックにしなくてもよい。

5. 一般的な試薬は、化学式で表示しても良い。

例) KCl, MgCl₂, Tris-HCl……………等

6. 放射性化合物を表記する場合は、その化合物中に含まれる放射性同位元素記号を書き、その左肩にその元素の原子量を付し、元素記号の後に化合物名を記す。元素記号と化合物の間をハイフンで結ぶ。

(例) ¹⁴C-ロイシン

7. 表題には、よほどの慣用語でない限り略語は使用しない。

8. 単位の略語記号について

g, l, m, sec, min, hr, °C, M(=mol/l), A, V, Ω, S(siemens=1/Ω), Da(=dalton), b(=base), LD₅₀(median lethal dose, cpm(counts per minute)などを用いる。各略字の後にピリオドをつけない。

各単位を1000倍するごとに、その前にk, M, Gをつける。また1/1000倍するごとに、m, μ, n, p, fをつける。ただしcmとdlを使うのは差支えない。

(本文中の時間の単位は、原則として日本語とする。ただし、msecはこの限りでない。)

IV. その他

1. 単位をタイプする時 spacing を守る。

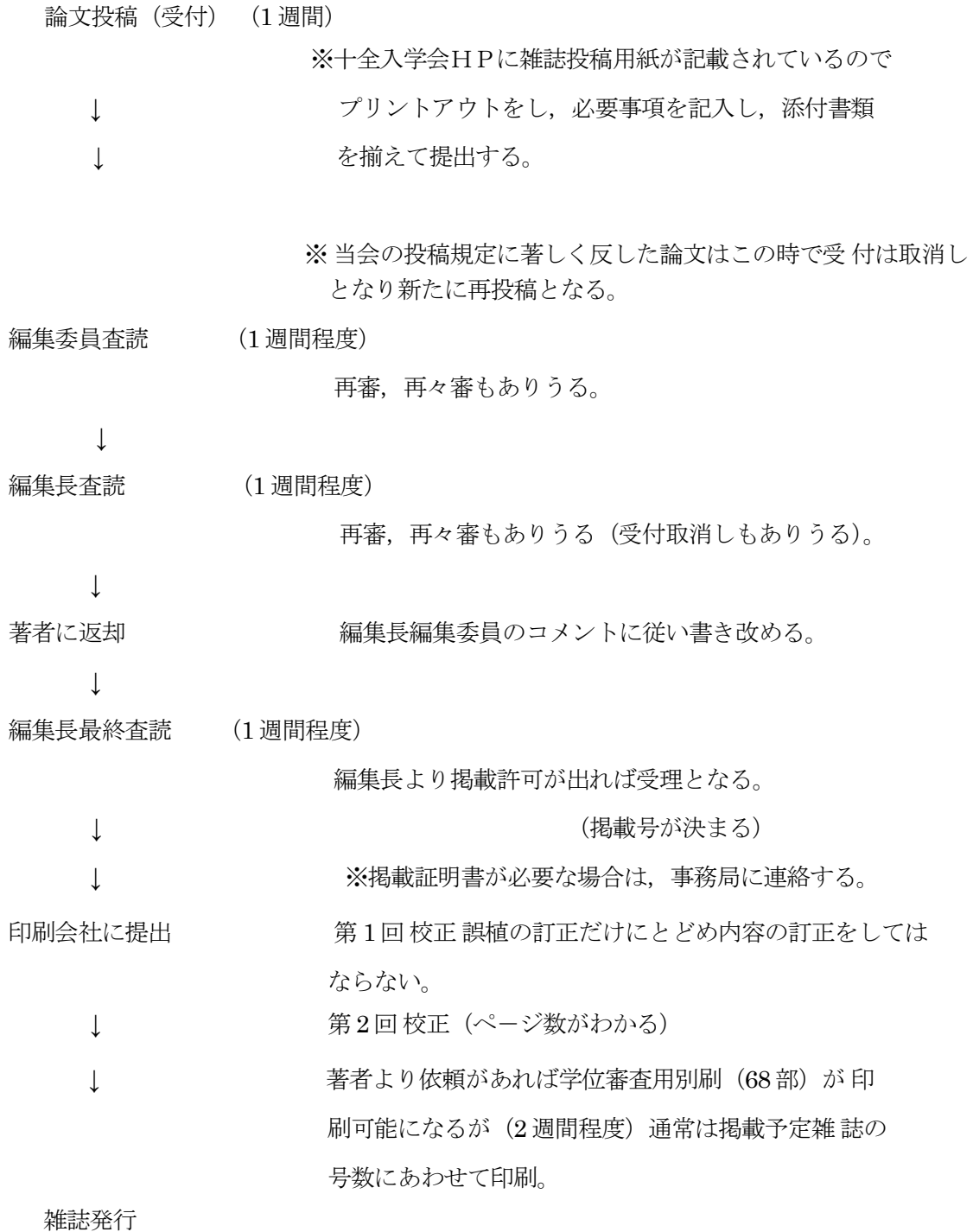
単位記号の中でその前の数値との間を空けずに書くのは, %, °Cおよび1st, 2nd程度のもので, cm, ml, g, min, hr等ほとんどすべてのものは数字との間を一字あける(十全医学会誌ではhrs, hはすべて規定外)。ただし, 和文(本文)のなかでは単位の前を一字あける必要はない。例外として, エル(1)で始まる単位に関しては, 数字との誤解を避けるために半角あけること。

2. コロン, セミコロン, コンマ, ピリオッドの英語としての使用法

例) +, positive reaction; -, negative reaction; V, variable reaction; A, acid reactionとあれば「+は陽性, -は陰性, Vは不定, Aは酸性反応」の意となるが, 少なからぬ人は, + : positive Reaction, - : negative reaction, V : variable reaction, A : acid reactionと書く。この際は(:)は()より区切る力が強いから「陽性反応は陰性であり, 陰性反応はVであり, 不定反応はAである……」となり意味をなさなくなる。また, + : positive reaction, - : negative reaction. V : variable reaction. ……と書くと文法的には(:)と(.)の関係は誤りではないが1つ1つのフレーズが切れ, 流れが悪く, 慣行とは言えない。

V. 論文投稿から発刊・別冊請求まで

1. 通常かかる期間（論文投稿数が多い場合は下記と異なる。）



2. 著者は雑誌発刊後，印刷会社より著者宛に掲載料が請求されるので，指定された期日どおりに振込む。

3. レフェリーからの再審,もしくは再々審の為に印刷所に渡すまでに2ヶ月以上かかることも珍しくはない。2ヶ月以上かかった場合は,それぞれの号の投稿締切日までに投稿したとしても次号に掲載が延期されることもある。

4. 投稿および問い合わせ先

〒920-8640 金沢市宝町 13-1 金沢大学医学部十全医学会

TEL 076-265-2131 FAX 076-234-4208

E-mail kenkyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

原稿は上記まで持参または書留郵送をする。

この規定は1991年に一部改訂した。

この規定は1997年に一部改訂した。

この規定は2000年に一部改訂した。

この規定は2004年に一部改訂した。